

1. 人が育つまち、

人と人がかかわり豊かな地域をつくり、未来につながる種を育てていくまち。

2. 指標

[目標の達成状況を測るモノサシ]

庁内のプロジェクト会議やワーキンググループの設置数の推移

庁内のプロジェクト会議やワーキンググループの他部署の参加部署数の推移

行政の計画策定において市民と行政の連携で取り組んだ事業数

行政の計画策定において市民と行政の連携で取り組んだ事業への市民の参加数

パブリックコメントの市民意見の数の推移

市民団体数、ボランティア参加数

3. まちの現状と課題

現在、人が育つという環境において、市民参画が少ない、または参加する人が限定されている、参画市民の温度差によって人づくりのしくみが実質機能していないという現状がある。また、その市民参画でできたものがよくないという意見もある。課題としては、市民の意識を育て、地域の人の才能を発掘し、活用することそしてその人とをつなげていくことが必要である。

さらに、育っていくべき若者、働き世代は時間がなく地域に積極的に参加できていない。また異なる世代間での伝承が行われず、育成していくしくみがなく世代交代が行われないという課題がある。

また、第4次総計には「人づくり」という項目はなかったが、環境や市民活動、福祉、教育など個別のところでは必要と養成が行われてきた。共通する課題を整理しどのような仕組みや手法が必要か共通点をまとめる必要がある。

その「人づくり」に関してまとめるにあたっては、1.人材像、2育成法、3.活動の場、4.システム、5.コーディネート、6.市民と事業・計画をつなぐ役割、7.事業の中の人材育成 など項目ごとに整理していくことが必要となる。

また、市民参画の場があっても合意形成のスキルがく、ファシリテーターやコーディネーターの能力が求められる。

また現在、次の世代を育てるということを中心に関係部局の一体的取り組み、市民との連携、人材の育成の取り組みが充分でない現状があり、「人と人がかかわり豊かな地域をつくり、未来につながる種を育てていくまち」を実現していくためにこの柱を実現するためには、市民、市民と行政の協働、行政の取り組みが、縦割りではなく有機的に一体となって連携し協働して取り組む必要がある。

4. 必要な取組

[市民等が取り組むこと]

1. 市民・事業者の意見・提言参加
2. 市民・事業者の評価参加
3. 市民・事業者の調整参加（縦割りを横につなぐ）
4. 市民・事業者の育成参加（行動現場で育てる。オン・ザ・ジョブ・トレーニング）
5. 市民・事業者の啓発参加（啓発普及を行う）
6. リーダーの役割
7. コーディネーターの役割
8. ファシリテーターの役割

9．市民団体・事業者としての参画

【市民等・行政が協働で取り組むこと】

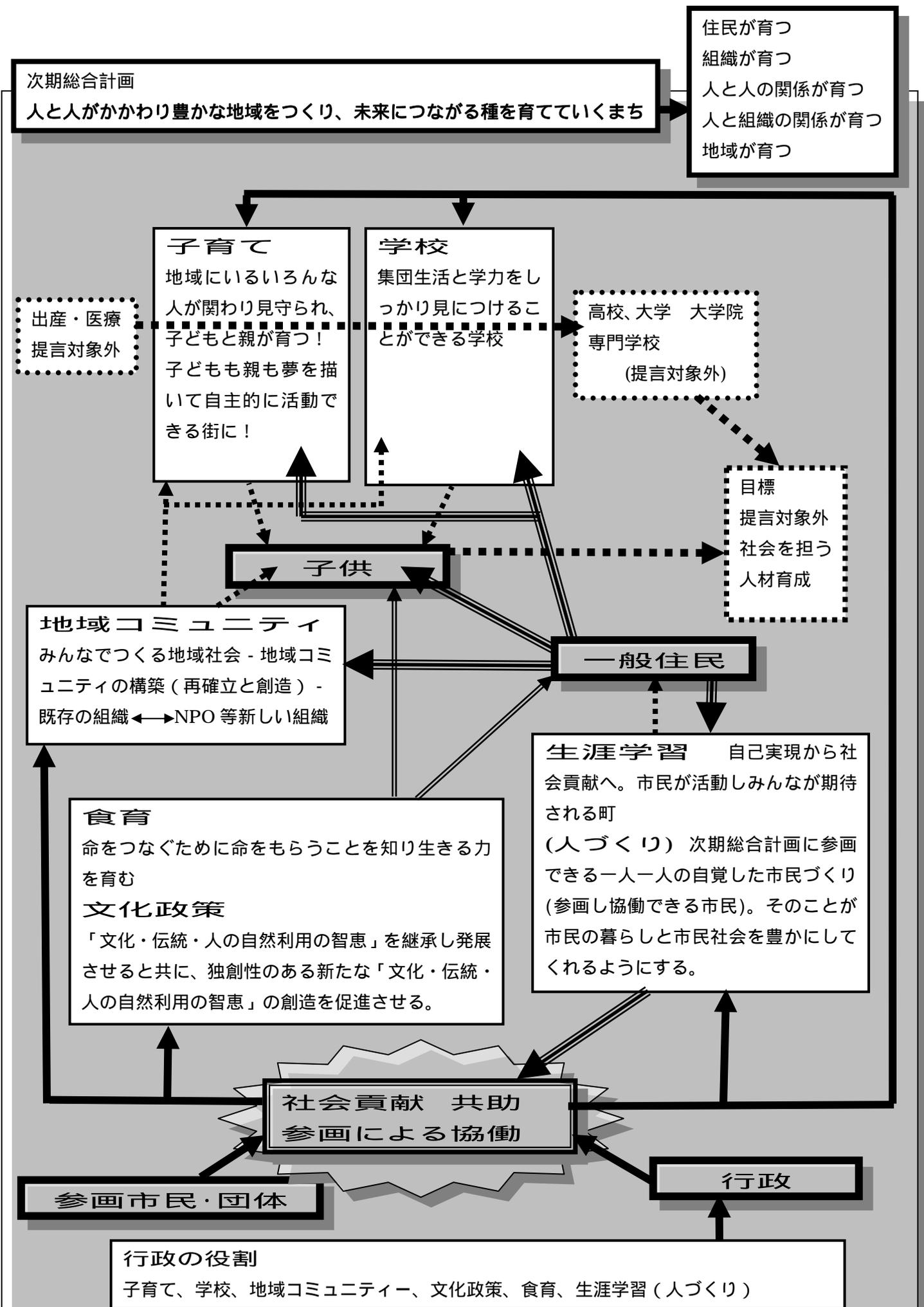
- 1．活動の場の提供（登録制度・活動の場の紹介、求めるところへ広報し求める人と求められる人をつなぐ）（子ども部、人権文化部、地域振興部、生涯学習部、教育推進部、）
- 2．育成する人材像を実現明確にし市民を育てる（生涯学習部）
- 3．「人と人がかかわり豊かな地域をつくり、未来につながる種を育てていくまち」を実現していくためにこの柱を実現するためには、市民、市民と行政の協働、行政の取り組みが、縦割りではなく有機的に一体となって連携し協働して取り組む必要がある。（子ども部、人権文化部、地域振興部、生涯学習部、教育推進部）

【行政が取り組むこと】

- 1．政策立案から市民や団体が参画できるシステムを推進する（子ども部、人権文化部、地域振興部、生涯学習部、教育推進部、市長公室）
- 2．市民活動を促進するために環境を整備する。場・人・資金・情報提供。（地域振興部）
- 4．特に若年層が地域活動に参加できる事業を展開する（子ども部、人権文化部、地域振興部、生涯学習部、教育推進部）
- 3．箕面市の伝統文化や地域情報を収集し、保存し、継承する専門家を育成する。図書館・郷土資料館・市民団体など。（生涯学習部）
- 5．生涯教育に人材育成を取り入れプログラム・カリキュラムを検討し実施すること。（生涯学習部）
- 6．各分野との連携による人材育成を進める。（子ども部、人権文化部、地域振興部、生涯学習部、教育推進部）

5．人材に関する重点施策「人と人がかかわり豊かな地域をつくり、未来につながる種を育てていくまち。」を実現するのに必要な人材

- 1．市民・事業者の意見・提言、評価、調整、育成、啓発に参加できる市民を育成する。
- 2．リーダー、コーディネーター、ファシリテーターの役割になえる市民を育てる。
- 3．育成する人材像を実現明確にし市民を育てる。
- 4．箕面市の伝統文化や地域情報を収集し、保存し、継承する専門家を育成する。



1. 子育ての目標

働く夫婦が安心して子育てと仕事を両立できるまち
子どもも親も夢を描いて自主的に活動できるまちに！
いろんな人が関わり見守られ、子供や地域の人々が生き生きと育つまち

2. 指標

【目標の達成状況を測るモノサシ】

- ・子育て「ひろば」の数の推移
- ・子育て「ひろば」の利用者推移
- ・虐待件数の推移
- ・家事、育児に関する講座に参加する男性の数の推移
- ・保育所入所希望者の推移

3. まちの現状と課題（きょうの箕面）

今、社会的事件などの影響もあり、子どもだけで遊びに行くような安全な場所がなくなってきている。また、子ども自身も習い事などで遊ぶ時間が減り、また遊びはゲームをする時間やテレビをみる時間などが多く自然と触れ合うこと、体を動かすことや読書をする時間が減ってきている。さらに整備面などで子育ての場・集う場としての公園の機能が十分発揮されてない。

また、月に一度や週に一度程度の子育てサロンやサークルなどは活発になってきているが乳幼児を育てる親が家からすぐのところのいつでも集えるような場が少ない。

最近、母体（民間、サークルの発展系、福祉会など）は様々だが家の近所でいつでも通えるような子育て支援拠点が全国で増えてきているが、箕面にはない。

箕面市には子育て支援センター「おひさまルーム」が現在2か所、そして3か所に増える予定であるがセンター自体の役割など、認知度が低く、また3か所になるにあたってはスタッフなどの充実がどこまでできるかが課題となる。

さらに、大きな課題の一つとしては、子育て中の親が（特に乳幼児の親）が家で孤立し、悩みなどが吸い上げられず、虐待が起こったり、問題が表に出てこないというケースもある。また、相談場所として公的な相談場所を利用する割合が少ない現状もある。また、逆に中高生など反抗期を迎えた大きくなった子の親が悩みを相談できる場所もあまりないという現状がある。

また、経済格差によって負担のある家庭も増えてきているが、その中でも母子・父子家庭は経済的な面や保育面などで負担が大きいといえる。母子・父子家庭ヘルパーやファミリーサポートなどの認知度が低くなっているのも現状である。

そして、男女協働参画の時代、共働き家庭が増え、多様な保育を必要としている家庭が増えている。とはいえ共働きであっても、家事負担・地域活動などが母親に偏っており、昔よりも父親の参加は増えてきているが、父親の協力が少ない家庭もある。まだまだ、働きながら子育てができる環境が充分でないといえる。

さらに核家族化の進む今では、急な用事や仕事の時に子どもをみてもらう場所が少なく、相談する相手が周りに少ない。

その課題として、一時保育サービス（ファミリーサポートなど）利用割合が低い、認知度が低い事が挙げられる。また、保育所の入所待機児童がまだ解消されておらず、保育所も定員を増やすなど工夫はされているがまだ手立てが必要となっている。

また、仕事などで忙しく地域活動に参加する親も減ってきているが、小学生以降の子どもも、地域活動に自発的に参加する機会が少なかったり、もともと意欲がなかったりと最近では異世代の交流が減ってきてい

る。中高生などでは特に乳幼児やその親と関わりあいがあることで自分が親になった時にその経験があるかないかで子育ての意識が変わってくる。

また、大きな社会的な課題として、様々な情報が氾濫している現代、子どもにとって有益な情報もあるがその中では有害な情報に触れる機会も増えているという問題がある。また、インターネット・携帯電話を介しての事件なども全国では発生している。しかし、現状では、情報モラルを教える機会があまりないのではないだろうか。

4．必要な取組

〔市民等が取り組むこと〕

- ・子どもや親が異世代交流できる場や機会をつくる
- ・地域全体で子どもを見守ることが大事。今の子育て世代の取り巻く環境を地域全体で考える。
- ・いろいろな立場の親子をサポートする機会を増やす、サポートの仕方を積極的に学ぶ。
- ・親子やまたは地域住民がセルフディフェンスについて学ぶ機会を増やす。また子どもの人権について学ぶ機会を増やし、地域社会に理解を広めていく。

〔市民・行政が取り組むこと〕

- ・広域なセンター型の子育て支援拠点（子育て支援センター）の充実や情報発信も必要。
- ・小さい子どもがいてもいつでも歩いて通えるような、家の近くにひろば型の子育て拠点を。
- ・公園の機能を見直す！異世代交流の場、子どもが体を動かして遊べる場所として有益な機能を持っている。
- ・また市民自身も使い方のマナーなどを守る意識を広めていき、看板の禁止事項の項目を減らしていけるように努力する
- ・アクセスしやすい、子育て支援WEBなどを作成。
- ・子育てサロンなど集える場所（何かしてもらえる場所）も必要な一方、保護者などが自発的に活動できる支援が必要
- ・小学生の子どもたちに対して夢を与える教育や取り組み
- ・小学生の子どもたちに対して地域活動への参加を促進
- ・小学生の子どもたちに対して、権利と義務を学ぼう
- ・子どもの権利条約などを学び・考える機会を増やす。
- ・子どもがインターネットなどによる情報の選択の仕方や扱い方、またその怖さや人を傷つける可能性があることを学ぶ機会をふやす。
- ・また、大人も子どもを有害な情報から守るよう、こどもと情報社会との付き合い方、また有害性それに関する事件について知る。
- ・中高生の子どもたちに対して居場所づくりが必要
- ・中高生の子どもたちに対して夢を支援する仕組みづくり
- ・中高生の子どもたちに対して地域活動への参加を促進する（社会貢献）
- ・小中高のころから継続的に、環境問題や国際情勢を知ったり、福祉的な活動に触れることは大切。現在ある市民団体に協力・交流してもらう。
- ・放課後などに子どもが自主的に、異年齢で遊べる場の創造（プレイパーク・子どもの居場所・総合型地域スポーツクラブなど）
- ・放課後などに子どもが自主的に、異年齢で遊べる場の創造
- ・共働き家庭に対して支援を充実する。
- ・父親の子育て参加を促進する

- ・ひとり親家庭に対して支援を充実する
- ・子ども家庭サポーター養成講座のような、子どものいる家庭への支援の仕方や、相談の受け方を学ぶ養成講座を開く。
- ・親のありかたについて学べる場をつくる。
- ・子育てについて相談できる場
- ・しつけとは何か、虐待とは何かなど、人には聞けないけど知りたいと思うことが学べる
- ・子どもと関わる大人（保護者・教員・職員・医療関係者・市民団体）が日常的に出会い、情報を共有し、研修し、協働できるような場の創造。
- ・母性保護・権利の普及啓発
- ・子ども 110 番の設置施設の見直し

【行政が取り組むこと】

- ・保育、学童保育の充実
- ・働く女性の権利の普及啓発
- ・子供を託す保育士、学童保育指導員の身分・雇用の安定が、質の向上や親を安心して繋がる
- ・男性が育児休暇など育児の為の時間を取りやすくするために市内勤労者に対する啓発と国に対し法の遵守と啓発、監視を強化するよう申し入れる。
- ・巡回パトロールを推進していく。
- ・出生届とともに図書館の貸出カードを発行する。
- ・見守りたい隊を全校に配置、また見守りたい隊の情報が集約できるように学校近くに拠点をつくる。
- ・「地域のこどもは地域全体で守る」という理念を具体的に言葉にして、浸透させていく。

5．人材に関する重点施策「(家や学校だけではなく)地域にいるいろんな人が関わり見守られ、子どもと親が育つまち。子どもも親も夢を描いて自主的に活動できるまちに！。働く夫婦が安心して子育てと仕事を両立できるまち。」を実現するのに必要な人材

- 1．子ども家庭サポーター養成講座のような、子どものいる家庭への支援の仕方や、相談の受け方を学ぶ養成講座を開きサポーターを育てる。
- 2．いろいろな立場の親子をサポートする機会を増やす、サポートの仕方を積極的に学ぶ。
- 3．親子やまたは地域住民がセルフディフェンスについて学ぶ機会を増やす。また子どもの人権について学ぶ機会を増やし、地域社会に理解を広めていく。
- 4．親のありかたについて学べる場をつくる。

1. 学校の目標

集団生活の基礎と学力をしっかりと身につけ、子どもたちがそれぞれの個性を認め合う、地域の中の安全な学校を目指し子供や地域の人々が生き生きと育つまち

2. 指標

- ・30学級を10年後に目指す
- ・高等教育への進学率の向上
- ・ゲストティチャーの授業数の推移
- ・民営委託化された施設の受益者の満足度
- ・学校施設の利用回数の推移
- ・学校施設の利用団体数の推移

3. まちの現状と課題(きょうの箕面)

今、全国的に学校では、いじめ問題や不登校、学力低下など社会的な課題としても挙げられるような問題がある。また、子どもたちだけではなく、子どもたちを教育する教師やそれを支える保護者の苦悩があることも言うまでもないだろう。また、教師の負担が大きくなれば、教育の質の低下を招く場合もあり、これらの問題は相互に作用する問題といえる。

そういう現状や箕面の教育を向上させていく課題としては、ハード面ではバリアフリー化の問題などがある。

また、地域住民が集える地域の拠点としての開かれた学校という立場がこれから大事になってくるが、社会的な事件などにより閉鎖された学校になりがちである。安全に登下校でき、安心して過ごせる学校という体制を整えていかなければならない。

また、経済格差が教育格差につながらないように経済的に厳しい子どもへの支援の多様性も必要になってくるだろう。

4. 必要な取組

[市民等が取り組むこと]

- ・登下校の見守り隊を全区域で実施
- ・ゲストティチャーなどに登録し自分の持つ豊かな知識を学校に貢献する。
- ・学校は、「教育サービス提供機関ではない」を自覚する。保護者はサービスを受けるお客様ではない。学校は子供を育てる聖職の場であり、学校・保護者・地域が連携して子供を育てる場であることを自覚する。
- ・保護者自らも教育の一端を担っていることを自覚する。
- ・家庭と地域は学校教育を理解し、協力するように努める。
- ・子どもたちも市民であり、自分たちの使う学校、公園、まちをよりよくするための意見を出す。
- ・学校の独自性を出し、魅力ある学校づくりを行う
- ・余裕教室を積極的に利用する
- ・子ども達のために教育の充実、予算の増額を行政に働き掛ける。

[市民等・行政が協働で取り組むこと]

- ・「ともに学び、ともに育つ」という理念を守りながら、安心して過ごせる学校。
- ・いじめ問題への対応。
- ・放課後学習。

- ・所得格差からくる学力格差対処を目指す。
- ・地域の交流を促進し、協働で子供を育てる。
- ・保護者自らも教育の一端を担っていることを学んでもらう。

[行政が取り組むこと]

- ・国に 30 人学級を要望する。府に対し現状の 35 人学級を維持すると共に学年拡大を申し入れる。
- ・市独自の 30 人学級制を全学年に導入する。
- ・正規教員の増員を国に要望する。
- ・教員の自主的な研修時間、費用の保障。
- ・教員の研修の機会の保障(教育センターの充実)
- ・社会的規範（自由と責任、権利と義務、罪と罰）を身につけるためのプログラムをつくる
- ・子どもや親が、安心して悩みや思いを伝えられる窓口を。
- ・スクールカウンセラーの充実
- ・医療的ケアが必要な子どもが通えるような学校づくりを目指す
- ・地域拠点としての設備の充実と公知 設備を充実させるための費用の確保
- ・教室へのエアコンの設置を促進し教育環境の改善を行う
- ・校舎の大規模修繕計画案の策定と公知
- ・バリアフリー化の推進
- ・学校独自予算を追加する 支援の必要な生徒に、適切な支援を行うことができるような教育を行う
- ・理科、家庭科の教材の充実。古いものから新しい物へ更新する。
- ・図書費の充実。新しい本の購入、古い本の更新を行う
- ・ゲストティチャーとしての心得を持ってもらう。学校との連携がスムーズに行くようにする。ゲストティチャー講習の実施。
- ・特に必要とされる分野のゲストティチャーを養成する。
- ・現在のゲストティチャー登録制度を見直し学校とゲストティチャーを直接つなぐシステムを作る。
- ・学校・保護者・地域の連携について常に保護者に啓発を行い「保護者はサービスを受けるお客様ではない」ことの自覚を常に啓発しモンスターペアレントの身勝手な解釈を排除する努力をすること。モンスターペアレントの基準を公開しておくようにする。
- ・民営委託した部分を、評価する制度をつくり、学校の質の維持向上に努める。
- ・学校施設の中にさまざまな子供や住民が集える場を作る。
- ・地域の交流を促進する教育プログラムを学校教育現場に提供する。

5．人材関するの重点施策「集団生活の基礎と学力をしっかりと身につけ、子どもたちがそれぞれの個性を認め合う、地域の中の安全な学校を目指す。」を実現するのに必要な人材

- 1．ゲストティチャーとしての心得を持ち、学校との連携がスムーズに行くようなゲストティチャー講習の実施。
- 2．特に必要とされる分野のゲストティチャーを養成する。
- 3．保護者自らも教育の一端を担っていることを学んでもらう。

1. 地域コミュニティ目標

子供や地域の人々が生き生きと育つ地域コミュニティーのあるまち。

2. 指標

[目標の達成状況を測るモノサシ]

行政が掌握している地域コミュニティ活動に関わる市民の人数の推移

行政が掌握している地域コミュニティ活動に関わる市民の団体数の推移

イベント等による公園の利用回数

3. まちの現状と課題（きょうの箕面）

現代では、地域のつながりの基本である向こう3軒両隣の付き合いがなくなりつつあり、地域の人顔が見えず、コミュニケーションの基本である挨拶をする機会も少なくなっている。また、自治会組織率の低下などからもいざという時にいつでも協力できる地域組織が今作られていないという現状がある。

また、核家族化やご近所づきあいが減っている現状から、異なる世代間で情報を伝えあう場がなくなっている。また世代にかかわらず、個人情報保護という時代、必要な連絡が取りづらい世の中にもなっている。

また、地域活動に携わる人も決まった人でそのつながりが限定されている、いろんな人を巻き込んで真のコミュニティが作られていくことがまだまだ難しい。さらに、コミュニティとしての重要な場所「公園」が今その機能性を全然発揮されていない。

こういう現状の中で、地域を育てるのは地域の人だという自覚をしていくことが大事といえる。また、行政だけでなく市民もともに公園などを大事にしていくという意識や働きかけが重要になる。

また、地域にいる様々な世代で支えあうことがこれからの時代必要で、たとえば、子育てを地域ですること、子育て世代の負担を軽減し、世代を越えた助け合いの糸口を作る必要があるといえる。

4. 必要な取組

[市民等が取り組むこと]

- ・みんなで助け合えば自分も助かるという社会を作る 既存の組織の再構築、新しい組織との連携、がっちりした組織でなくてもやわらかくもつながりのある組織作りを（その場を創出）
- ・コミュニティ（自治会等）へ誘う（声かけを行う）ことで、コミュニティへの参加を促す。

[市民等・行政が協働で取り組むこと]

- ・地域自治組織の再構築
- ・自治会組織の目的と役割を再構築し、協働によるまちづくりをめざすにおいて、近隣の住民同士が理解し、共同体としての意識を高めることを推進する
地域の既存組織（守る会・福祉会・老人会・こども会など特定の使命を担う組織）と他の市民活動団体によるまちづくり
- ・暮らしに役立つ近隣情報の共有
- ・問題意識の共有
- ・事業の協働
- ・地域コミュニティ施設の環境整備と活用
- ・誰もが日常的に出会える場づくり
- ・利用規制の緩和 - 責任をみんなで持ち合う地域 -
- ・公園の機能を最大限活かす管理、しくみを！

- ・市民が抱える問題の解決に必要な知識をもったコミュニティを紹介する。また、そのような窓口を作る。
- ・リーダーを育成する

[行政が取り組むこと]

地域と行政と関係機関による協働の促進

- ・ 地域のまちづくりを協働で推進する会の設置
- ・ 情報や問題意識の共有
- ・ 事業の協働

地域に独自予算をもらう

・行政から一定の地域予算をもらい、それぞれの地区で地域の独自性をみがき、魅力ある地域をめざす住民が自由に参加できる場の設置とプログラムづくり

・ 興味や関心に応じて、余暇・レクリエーション・趣味など、誰もが個人でも参加できる場づくり
世代を超えて文化を継承する活動の創造と継続

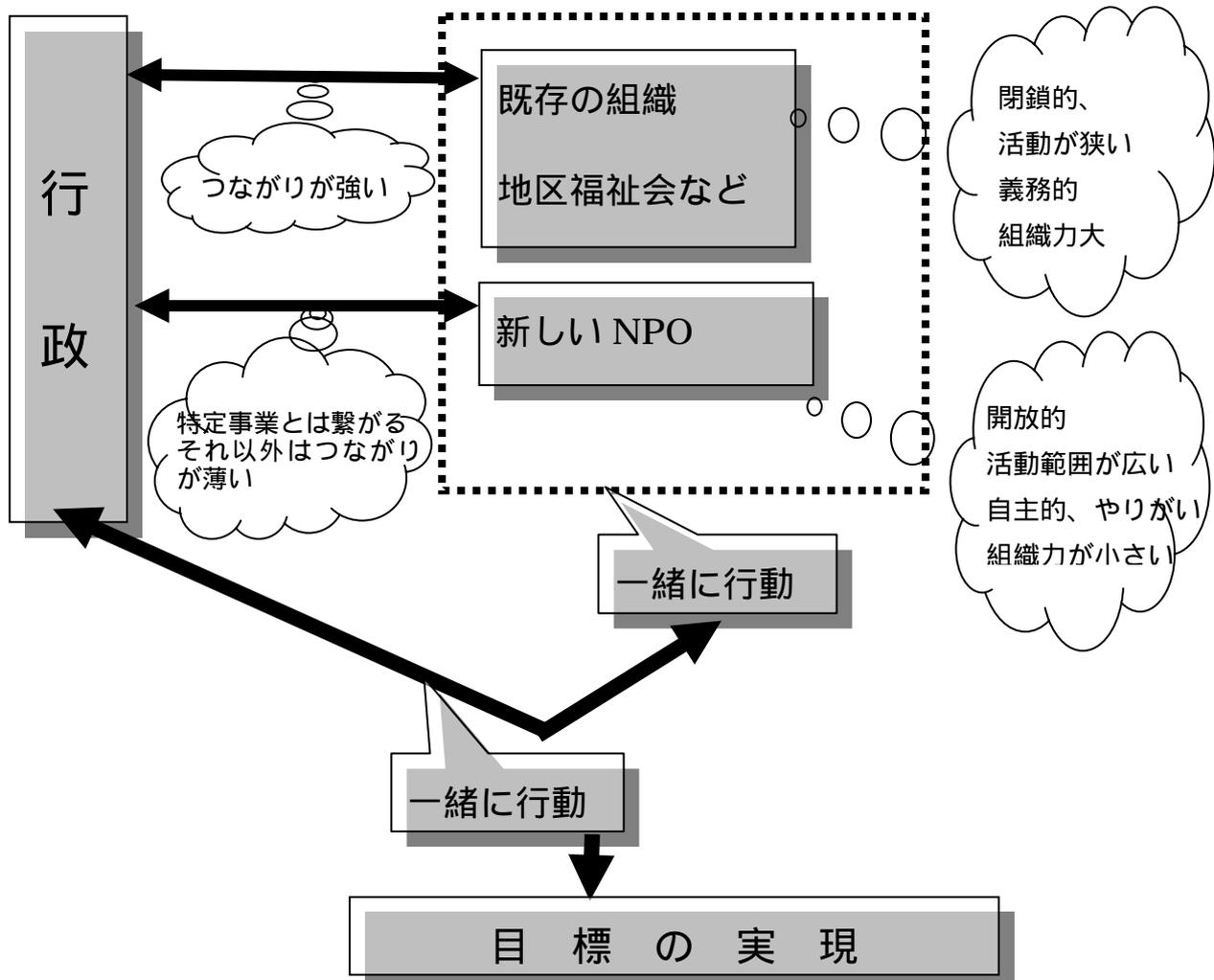
- ・ 伝統文化の創造と継承 - 地域のまつりなど

子育て世代や子どもなど（異なる年代）との交流の場を増やす。

- ・異なる年齢、世代の交流する機会、場所を自発的に作られるしくみ、サポートを

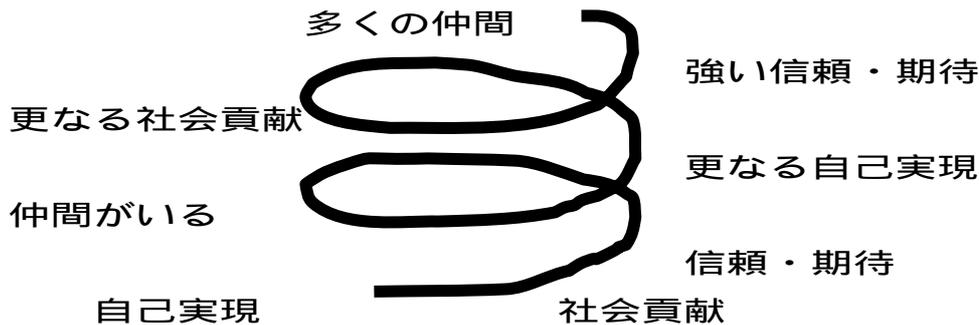
5. 人材に関する重点施策「子供や地域の人々が生き生きと育つ地域コミュニティのあるまち。」を実現するのに必要な人材

1. 地域コミュニティのリーダーを育成する。



1. 生涯学習の目標

自己実現から社会貢献へ 市民が活動し皆が期待されるまち



2. 指標

【目標の達成状況を測るモノサシ】

講座受講者数の推移

社会貢献活動に結びつく講座数の推移

講座受講者の満足度

3. まちの現状と課題（きょうの箕面）

【まちの現状とまちづくりの課題】

箕面市においては、市民と行政の取り組みでの生涯学習プログラムが他市よりも活発であり、市民も学ぶことへの意欲・意識は高いが、自分の教養や趣味にとどまる事が多く、趣味に偏った場合は往々にして閉鎖的な面も見られる。また、学んだことを活かすようなシステムの構築はまだこれからという段階である。

一方では、生涯学習に参加する人も限定された人が多く、いくつになっても学ぶことや知ることが大事であるという意識を普及させていく必要性もまだまだある。

また、学習やサークルは他市より多く存在するが連携した取り組みが少なく、生涯学習を企画する側の意識にも課題があるといえる。さらに、高齢者の方などで体力もあり活躍できるような方が活動する場が少なく、また体力の差などとりまく環境によって活動の仕方が変わってくる現状がある。

4. 必要な取組

【市民等が取り組むこと】

1. 生涯学習の場の講師など、自分の技術や得意なことを貢献する。
2. 孤独にならない（地域で訪問や声をかけあう）
3. 市民企画、NPO 企画を提案する。
4. 身近な人を誘う。
5. 生涯学習で学んだことを友だちや身近な人の伝えることにより情報の共有が出来る。

【市民等・行政が協働で取り組むこと】

1. 学んだことを地域で活かす場の創出。
2. 特技・技能などを教え継承できる高齢者が力を発揮できる場をつくる地域人財バンクを創る
3. 自分の技術や得意なことを登録して、地域貢献する仕組み。
4. 安心して暮らすことができる。相談できる場がある（しゃべり場のように気軽に話をする場が地域にある）
5. 育成する人材像を実現するために市民を育てる内容が必要である。専門家と連携して行う。

市民意識の向上 個人と地域集団が、地域に関連する問題を意識できる感受性を身に付ける。

市民の豊かな知識(生涯学習) 個人と地域集団が地域に関連する問題、およびその問題の中の市民がきわめて大きな責任ある存在と役割を持つことを基本的な知識として身に付ける。

市民の積極的態 個人と地域集団が、地域の良さ、地域の問題に対する強い思い、および地域の良さや伝統・人々の繋がり、環境の改善に積極的に参加する意欲を身に付ける。

市民も技術を身に付けること 個人と地域集団が地域の問題の解決のために必要な技術を身に付けること。

市民が評価能力を持つ 個人と地域集団が、目指す地域の有り方についての取り組みを環境的、政治的、経済的、社会的、住民感覚的、教育的要因から評価する能力を身に付けること。

多くの市民が参加・行動する 個人と地域集団が、地域の問題を解決する適切な行動を保証し、地域の問題に関する責任感を深め自ら地域の諸活動に参加できる行動力を身に付けること。

[行政が取り組むこと]

- 1．様々なバリアフリー化(ソフト面もハード面も)で、誰もが学習しやすい機会を作る
- 2．高齢者の方が自発的に活動できる機会や場をつくる、もしくはそれを作ってもらう支援を。
- 3．市民の自主的な生涯学習を支援する
- 4．生涯学習のニーズを把握する
- 5．自主的な学習に対して支援を行う
- 6．社会貢献活動に結びつく生涯学習プログラムの充実
- 7．社会貢献に必要なスキルの学習プログラムの充実
- 8．生涯学習で、様々な公共施設の目的を明確にし、目的達成のための利用を促進をする
- 9．健康の維持増進、地域コミュニティ創造のために、誰もが気軽に利用できる場の創造
- 10．行政資料や地域資料を共有し有効利用できる環境整備(図書館など)
- 11．様々な分野の団体や行政が連携し、協力できるシステムをつくる
- 12．個々の趣味・興味・関心に合わせて、自由に自発的に参加できる場をつくる
- 13．不安や悩みを相談し共有できる仲間づくりと問題解決のための安定した公的機関やプログラム(人材養成も含めて)を構築する

5．人材に関する重点施策「自己実現から社会貢献へ 市民が活動し皆が期待されるまち。」を実現するのに必要な人材

- 1．生涯学習の場の講師など、自分の技術や得意なことを貢献する市民を育成する。
- 2．育成する人材像を実現するために市民を育てる内容が必要である。専門家と連携して行う。

市民意識の向上 個人と地域集団が、地域に関連する問題を意識できる感受性を身に付ける。

市民の豊かな知識(生涯学習) 個人と地域集団が地域に関連する問題、およびその問題の中の市民がきわめて大きな責任ある存在と役割を持つことを基本的な知識として身に付ける。

市民の積極的態 個人と地域集団が、地域の良さ、地域の問題に対する強い思い、および地域の良さや伝統・人々の繋がり、環境の改善に積極的に参加する意欲を身に付ける。

市民も技術を身に付けること 個人と地域集団が地域の問題の解決のために必要な技術を身に付けること。

市民が評価能力を持つ 個人と地域集団が、目指す地域の有り方についての取り組みを環境的、政治的、経済的、社会的、住民感覚的、教育的要因から評価する能力を身に付けること。

多くの市民が参加・行動する 個人と地域集団が、地域の問題を解決する適切な行動を保証し、地域の問題に関する責任感を深め自ら地域の諸活動に参加できる行動力を身に付けること。

1. 食育の目標

食を通していのちと環境のつながりを学び、人が生きる力を育むまち

2. 指標

- ・農地面積の推移
- ・農業従事者数の推移
- ・農産物の生産量の推移
- ・市民農園等の参加者の推移
- ・子どもや親子を対象にした料理プログラムの講座回数の推移、また参加者の推移。
- ・農業体験等の回数の推移
- ・取り組みの中でできた店舗数の推移
- ・生ゴミ堆肥化に対する補助制度の利用の推移
- ・市民の健康の向上の推移
- ・個人から地域社会・学校での栄養教育プログラム実施回数の推移
- ・小中学生および国保加入者の肥満度の推移

3. まちの現状と課題（きょうの箕面）

【まちの現状とまちづくりの課題】

今、全国的に食に関する様々な問題が浮き彫りになっており、ニュースでは食品偽装、産地偽装、BSE問題などについて報道され、食生活への不安と安全への疑問が高まっている。また、日本の食糧は外国への依存も高く、自給率の低下と食糧危機への不安も問題となっている。地産地消を推進し、自給率アップを目指すことが課題となる。箕面市では市民が作った剰余生産物が販売できない現状があり、これからの販売の工夫がされることも望まれる。

さらに、食べ残しも多く、食品の廃棄など「もったいない」という意識の喪失や、子どもたちの食の乱れ（個食、ファーストフードなど）、家族揃って食事をする習慣の減少など家庭レベルでの問題も多くある。食べること、いただくことの意味、「もったいない」という言葉を知り、生産者を尊ぶ気持ちを育てることが必要になってくる。

また、食育の根本といってもいい農業に関しては、後継者不足および農業の高齢化も深刻な問題となっている。農業の場である農空間を知る(体験・観察)、農空間を守る、農業の遺産(技、智恵、伝統、文化)の継承をどう進めていくかが課題であり、そういう課題に市民参画が推進されなければならない。

また、食は健康と直接つながっていることから、一人ひとりが健康を維持する為の食生活を選択できる能力を養うこと、生活習慣病の予防のため食生活を改善するというように食環境のあり方を考えるという意識を高めていかなければならない。

また、いのちを育むという意味では妊娠中の栄養指導と調理実習、離乳食、幼児食の指導や就学前の親子料理教室などの体験も非常に重要である。

それを支えるような、ヘルスメイト(食生活改善推進のボランティア)などの役割の周知がまだ少ないのも現状といえる。

4. 必要な取組

【市民・事業者の役割】

1. スキルと知識を持った市民リーダーの実地養成を行う。
2. リーダーとして農空間のすばらしさを知らせる。体験、観察活動など。

- 3．スキルを持った市民リーダーとして農空間を守る。里山管理に参加する。植林の手入れ活動に参加する。
- 4．スキルを持った市民リーダーとして田植えや稲刈りなど援農活動を取り組む。
- 5．市民にできる都市近郊型農地農業の支援を考える。
- 6．知識を持った市民として農業の遺産の調査や継承方法を学識経験者、行政と協働して研究・実施する。
- 7．知識を持った市民として農業の遺産(技、智恵、伝統、文化)の継承を子ども達や市民に普及啓発する。
- 8．地域に地産地消・旬産旬食の応援団作り(コミュニティ形成にもつながる。身体も元気になれる)。
- 9．食べること、いただくことの意味を子ども達や市民に普及啓発する。
- 10．「もったいない」を子ども達や市民に普及啓発する。
- 11．生産者を尊ぶ心を子ども達や市民に普及啓発する。
- 12．住民・農業者・事業者が子供たちを対象とした、料理作りプログラムに参画と協力をする。
- 13．食生活習慣病予防の為、食生活改善プログラムの充実をはかり、市民・事業者が積極的に参加する。
- 14．スローライフ・スローフード(伝統的料理)など積極的に取り組み、自然が豊かな箕面での暮らしを充実させる。
- 15．市民・事業者など、地域や学校へのサポート、支援などを積極的に行う。

【市民・事業者・行政が協働で取り組む】

- 1．身近なところに箕面産の農産物を買える所をつくり、市民は積極的に購入する。
- 2．箕面産の農産物を販売できる個人商店や、スーパーなどを増やす(箕面産農産物取り扱い店という登録制度や取り扱いマーク)
- 3．食教育推進のため、市民組織の養成、支援、育成に努める。
- 4．市民リーダーの養成と活動支援の仕組みを創る(助成制度・情報提供・機材提供・活動の場づくり・コーディネート役割や資格など)
- 5．市民参加のステージ創り、農業体験のプログラムや内容の充実をはかる。
- 6．知識を持った市民として農業の遺産の調査や継承方法を学識経験者、行政と協働研究・実施する。
- 7．地域特産品の開発と拡大、箕面の特産品のPR(だれもがセールスマンであり、広告塔となりまた積極的な消費者となる)
- 8．学校ごとに特色のある食育事業を発展させる取り組みやしきみづくり(子どもたち・PTA・地域住民・市民リーダーなど)
- 9．鳥獣被害の防止、(真の動物愛護とは何か・自然環境の保全とは何かを考える)
- 10．個人対象の栄養指導から脱却し、学校、地域社会全体で取り組む、栄養教育プログラムをつくる

【行政の役割】

- 1．農空間の整備・保全(ため池、水路、田畑、山林)統一と連携の取れた政策を持つ
- 2．農林業の保全と拡大、市内需要促進をはかる。
- 3．鳥獣被害の政策(他府県の事例なども学ぶ)
- 4．農業後継者・担い手の育成・政策やしきみをつくる(国、大阪府・他府県・農協・事業者などの連携)
- 5．地域住民や市民応援団が学校や地域へのサポートがしやすいように窓口をつくる。

5．人材に関する重点施策「食を通していのちと環境のつながりを学び、人が生きる力を育むまち。」を実現するのに必要な人材

- 1．スキルと知識を持った市民リーダーの実地養成を行う。
- 2．リーダーとして農空間のすばらしさを知らせる。体験、観察活動など。

- 3．スキルを持った市民リーダーとして農空間を守る。里山管理に参加する。植林の手入れ活動に参加する。
- 4．スキルを持った市民リーダーとして田植えや稲刈りなど援農活動を取り組む。
- 5．市民リーダーの養成と活動支援の仕組みを創る（助成制度・情報提供・機材提供・活動の場づくり・コーディネート役割や資格など）
- 6．食べること、いただくことの意味を子ども達や市民に普及啓発する。
- 7．「もったいない」を子ども達や市民に普及啓発する。
- 8．生産者を尊ぶ心を子ども達や市民に普及啓発する。

1. 文化政策の目標

子供や住民が生き生き育つために「文化・伝統・人の自然利用の智慧」を継承し発展させると共に、独創性のある新たな「文化・伝統・人の自然利用の智慧」の創造を促進させる。

2. 指標

【目標の達成状況を測るモノサシ】

文化イベント、施設への入場者数の推移

指定文化財の件数の推移

公立図書館貸出冊数（人口1人当たり）の推移

文化施設数の人口千人当たりの比率を全国水準より高く保たれているか

各種文化活動の行動者数、

文化活動への年間予算額が全予算に占める割合の推移

3. まちの現状と課題（きょうの箕面）

【まちの現状とまちづくりの課題】

箕面市の文化政策においては、そもそも市民が気軽に文化に触れ合えているのかが大きい問題といえるだろう。文化に馴染みのある人たちだけでなく、箕面市民全体が文化に親しみ身近なものであることが重要だといえる。

また、箕面市として何が文化遺産であるか行政、市民、事業者の合意ができていない。遺産を継承して行く場(施設)、遺産を見たり体験し学ぶ場があるのか、遺産のリストは整理されているのか、そして担当部局は充実しているのか、文化を鑑賞、創造、参加できる環境整備とともに箕面の自然、歴史、文化、伝統などの遺産を継承していけるのか、体制は整っているのかが課題といえる。

それに対して市民の声を反映する場や窓口は用意されているのか、市民意見が反映されているかを検証する必要もある。

そして、一方で文化芸術活動をしている人たちに活動の場が保障され、その自主性が尊重されているかも課題となるだろう。

4. 必要な取組

【市民等が取り組むこと】

1. 文化遺産の保全・展示・解説活動への参加。市民学芸員活動。
2. 文化遺産を解説しその意味を伝える「博物・文化インタープリター」としての活動により遺産を通じた学習を広げる。
3. 文化遺産の継承に協力する。

【市民等・行政が協働で取り組むこと】

1. 文化を教授する裾野の拡大を目指す。
2. 文化に親しみを通じて市民の身近なものにする広報・普及の施策を持つ
3. 文化を鑑賞、創造、参加できる環境整備
4. 文化交流の促進
5. 文化遺産の保全と活用
6. 遺産のリストを調査・整理する。

[行政が取り組むこと]

- 1 . 箕面の文化、歴史、伝統行事、郷土（愛）などを伝える機会を充実する
- 2 . 箕面を訪れる人に対して、また、箕面を訪れたいと思わせる何かをつくる。
- 3 . 図書館・郷土資料館・博物館・美術館など芸術文化を創造し、発展させ、継承するための環境整備。現存の施設や屋外にある遺産をそのまま保全、展示、活用、学習できるエコミュージアムの理念に基づいた、文科省登録博物館の開設。郷土資料館を核に教育委員会所管の市立博物館に昇格を検討する。
- 4 . 保全、調査、研究、展示、学習の基盤の整備
- 5 . 箕面の自然、歴史、文化、伝統などの遺産を継承する体制の整備。生涯学習部、人権文化部の文化に関わる部局を教育委員会側に統合する。
- 6 . 地域丸ごとの文化遺産を解説しその意味を伝える「博物・文化インタープリター」を養成し活用する。
- 7 . 学芸員資格者の職員採用を進める。保全、調査、研究、展示、学習の専門職員の確保。
- 8 . 箕面から新しい文化を発信する場の整備
- 9 . 文化のレベルアップの支援
- 10 . 文化芸術活動をしている人たちに活動の場が保障される会場使用免除制度を創設する。
- 11 . 市民の声を反映する場や窓口の設置
- 12 . 文化・芸術基本条例の確立。自主性の尊重、不介入の原則の確立。多様性の保護・発展。市民意見の反映。文化の交流。

5 . 人材に関する重点施策「子供や住民が生き生き育つために「文化・伝統・人の自然利用の智慧」を継承し発展させると共に、独創性のある新たな「文化・伝統・人の自然利用の智慧」の創造を促進させる。」を実現するのに必要な人材

- 1 . 文化遺産の保全・展示・解説活動への参加。市民学芸員活動。
- 2 . 文化遺産を解説しその意味を伝える「博物・文化インタープリター」としての活動により遺産を通じた学習を広げる。